

集会案内

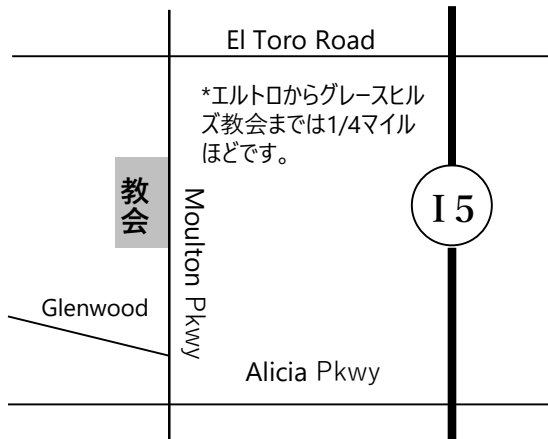
毎週日： 祈 禱 会 1 : 1 5 p m - 1 : 4 5 p m
礼 拝 2 : 0 0 p m - 3 : 2 0 p m
茶 菓 3 : 3 0 p m - 3 : 5 0 p m
聖書研究 4 : 0 0 p m - 4 : 5 0 p m

毎月1回：家庭集会 ラグナ・ウッズ、又はアーバイン
10 : 30 a m ~ 昼食

教会住所： c/o Grace Hills Church
24521 Moulton Pkwy
Aliso Viejo, CA 92637

- ◎ 私達の礼拝は第1バプテスト教会グレース・ヒルズ教会堂内のチャペルで行なっています。
- ◎ 子供たちのためのサンデー・スクールもあります。また、遊具等の設備も豊かに整っております。
- ◎ 13年前に始まった日本語教会です。どなた様もお気軽にお出かけ下さい。

教会の地図



ホームページ: www.irvinihongokyoikai.org

 Irvine Nihongo Kyokai

連絡先:

杉村 宰 牧師 電話: (714) 527-1456
Eメール: sugimura1950@gmail.com
田畑 彰 牧師 電話: (949) 701-6502
Eメール: mt.moriya77@gmail.com

Rev. Tsukasa Sugimura

◎石叫 ■ 「幻のノーベル賞」
今回はNHK『歴史ヒストリア』(二〇一八年十月十日放映)の「まぼろしのノーベル賞」山極勝三郎(やまぎわかつさぶろう)博士の秘話である。今から百年前、山極は十七歳で東大の医学部に入學。在学中に結婚したが、生まれて間もない長男を肺炎で失った。これが彼を病気の原因を研究する病理学の道に進ませた。三年後の一八九一年にドイツ留學。そこでルドルフ・ウィルヒョウに会う。ベルリン大学教授で病理学の世界的権威であった。学びを終えた後、山極は東京大学医学部の教授に就任した。当時は北里柴三郎や野口英世などが世界のトップに躍り出た時代であり、山極もその一人であったが、その道は険しいものであった。彼は癌を人工的に作り出せばその発生のメカニズムが明らかになると考えたのである。山極は正常な細胞が刺激を受け続けば癌になると推測した。ウィルヒョウの説でもあった。ウサギの耳にコールドールを塗り、そして剥がすという単調な実験を繰り返した。実験開始から八年後の一九一五年夏、ついに病理変化が観察された。山極はノーベル賞候補に挙げたが、結果はデンマークのヨハネス・ファイベルが受賞した。彼の成功時期が山極より少し早かったというのが理由だった。山極は一九三〇年、享年六十七歳で世を去ったが、一九六六年、日本で開かれた癌の国際シンポジウムに山極のノーベル賞審査に深く関わった研究者が来日し、驚きの発言が飛び出した。「あの時のノーベル賞は日本人とデンマーク人が分け合うべきだった」と。今、癌研究の世界で山極の名を知らない人はいない。がん医療の英字教科書の冒頭に「カツサブロウ・ヤマギワ」の名が掲げられているからだ。それにしても八年間、よくもウサギにコールドールを塗り続けたものだから。それを見守り続けた東大関係者も偉い。それが出来たのは必ず癌が出来るという強い確信からであろう。パウロをヨーロッパ伝道に向かわせたのも、これであった。「神がわたしたちをお招きになったのだと確信して」(使徒行伝一六・10)とある。彼は聖霊と幻とイエスご自身の三者の導きを判断して、彼の地に伝道に出かけることが主の救いが必要としていた。私たちが主イエスを証し続けるのも、すべての人が主の救いが必要としていたという確信から来る。

「私達の教会の歩み」

2005年9月18日、アーバイン日本語キリスト教会は、南オレンジ郡地域の日系人とその関係する方達の救いのために、東洋宣教会北米ホーリネス教団オレンジ郡キリスト教会の伝道所として礼拝を開始しました。杉村宰牧師をはじめ、田畑彰牧師、ジェームス・パーク牧師、佐藤裕士兄と信徒達の協力で毎週礼拝をささげ、伝道と牧会の働きをし、月一回の家庭集会を開いております。

「ミッション・ステートメント」

アーバイン教会の使命は、罪の中にある人々を救うために十字架について死んで下さり、三日後に復活されたイエス・キリストの歴史的事実を、まだイエス・キリストを知らない日本語を理解出来る人々に、主の大宣教命令(マタイ28:18-20)に従って宣べ伝え、ホーリネスという愛の信仰を土台として信者達の信仰の成長をうながし、イエス・キリストとの祈り深い生活へと導き、整えられたクリスチャンとすることにあります。